

石神の丘美術館の入口には、鮮やかな大輪のダリアが咲き、訪れる人を迎えています。



石神の丘美術館通信《いしび》

ishibi

2007.9.1 Vol.59

このダリアは、田村進さん(一方井)ご夫妻が育てたものです。牡丹の花に似ていることから、「天竺牡丹」と呼ばれることもあるダリアですが、品種に富み、色だけでなく、八重咲き、ポンポン咲きなど花の形も様々です。秋めいてきた景色の中で、ぱっと輝くような色彩は見る者を元気付けてくれますね。

企画展示室では、9月1日(土)から「渡仏40年—パリで紡がれる神話世界 宇津宮功展」が始まりました。宇津宮功(うつみやいさお)さんは、盛岡市の出身で、岩手高等学校から武蔵野美術大学造形学部に進学し、1967年、大学を卒業と同時に渡仏し、以来パリとその近郊で制作を続けています。これまで、数年ごとに日本でも個展を開催し、新作を発表してきましたが、1970年代の初期作品から最近作まで、およそ60点の作品を紹介する今回の展覧会は、宇津宮さんの作品世界の全貌に迫る初めての試みです。作品の一部は、作家がキャンバスを巻いてフランスから持って来たものなんですよ。

鮮やかな色彩の作品には、不思議な人物や動物などが登場します。あなたは、これらの作品からどんなことを思うでしょうか。ぜひ、この機会に作品との語らいを楽しんでくださいね。

渡仏40年—パリで紡がれる神話世界

宇津宮功展 *Le monde mythique d'Utsumiya*

会期:2007年9月1日(土)~10月8日(月・祝)

開館時間:9:00~17:00 会期中無休

観覧料金:一般300円/大・高生200円/中学生以下無料

アートサイト

宇津宮功展 II

宇津宮功展が始まりました。フランス在住四十年余の間に約八百点の作品を制作したのと、とで、その中から厳選した絵画、デッサン、絵皿、立体など初期から最近作までの六十三点を展示しています。

宇津宮さんのこれまでの展覧会では、最大規模のもので、展覧会の内容を作品と作家・作品論、年譜、出品目録、フランス語訳でまとめたA5判、百二十二ページの作品集(千六百円)も発行しました。

宇津宮さんの画業の歩みと内容が理解できる内容になっていますので、今後の展覧会を鑑賞するときに、研究するうえでの

基本文献として重要な位置を占めることは間違いないと自負しております。

展覧会初日には、宇津宮さんの「自作を語る」と題する講演も行われました。講演ではフランスでサム・フランシスらの作品を見たことにより、それまでの平面絵画に対する疑問から解放され平面の可能性を見出したこと、北上川をモチーフにした大作「黄色い河」シリーズの生まれた経緯、「生物圏保護区」シリーズは森林破壊による生命、生物など絶滅の危機に瀕している種の問題をテーマにしていることなど、自作の背景についての解説が行われました。

作品の「絵解き」というものは、プロである絵の研究者でも困難な仕事で、場合によっては描いた本人でさえ自作を解説できないこともあるのです。なぜかという点、絵画は作者の意図

を超えて現れてくるものもあるからです。

深層心理などが無意識のうちには作用しているということなのでしようが、それだけではなく、絵画構造の部分と全体が作者の意図とは関係なく反応を起こして作者の意思や意図を超えて現れることがあるからです。

いずれ宇津宮さんの作品は、全体を大きなテーマとして考えると「生と死」として捉えることが出来ると思います。生と死には社会的な背景だけでなく性的な背景など、さまざまな背景が考えられます。その辺りを鑑賞する際に注意してみると漠然と見ているのと違って、見えてくるものがある筈です。

(芸術監督・六岡 康光)

渡仏 40 年—パリで紡がれる神話世界

宇津宮功展 *Le monde mythique d'Utsumiya*

9月1日(土)、企画展示室では、『渡仏 40 年—パリで紡がれる神話世界 宇津宮功展』がはじまりました。この展覧会は、岩手ゆかりの作家の作品を個展形式で紹介する「北の作家」シリーズの一環として開催するものです。

宇津宮功さんは、盛岡市の出身で武蔵野美術大学造形学部を卒業後渡仏し、以来パリとその近郊で制作を続けてきました。秩序と混沌、精神と身体、目に見えるものと見えないもの、相反する事柄が同時に存在する鮮やかな色彩の画面は、見るものに強く訴えかける力を持っています。

会期初日には、講演会「宇津宮功・自作を語る」が開催され、パリで制作を始めた若き日のことや作品の経緯などのお話を伺ったほか、会場をレストラン石神の丘に移して「交流会」(共催:石神の丘美術館友の会)も行われました。

この展覧会は、10月8日(月・祝)まで開催しています。ぜひ、この機会にお出かけください。



《展覧会期》
2007年9月1日(土)
～10月8日(月・祝)
《開館時間》
午前9時～午後5時
会期中無休

■図録 好評販売中
A5判 122p 図版65点掲載
1冊 1,600円



宇津宮 功 (うつみや いさお)

1945(昭和20)年、岩手県盛岡市生まれ。1963(昭和38)年、岩手高等学校を卒業し武蔵野美術大学造形学部に入学。1967(昭和42)年大学卒業と同時に渡仏、以来、パリとその近郊で制作を続けている。1968(昭和43)年グランプリ・ド・パーク賞受賞(ニース/フランス)。1981(昭和56)年岩手県優秀美術選奨受賞。MORIOKA 第一画廊(盛岡)、日本画廊(日本橋)、ギャラリー・アート・デュールン(浜松)などで定期的に個展を開催。



平成 19 年度 石神の丘美術館工房体験講座

篆刻を楽しむ — 雅印に挑戦 —



「篆刻(てんこく)」とは、木や石などに文字や絵を彫り印を作ることです。掛軸や書道作品などの隅に小さく押されている姿でご存知の方も多いのではないでしょうか。

この講座では、初心者の方を対象に、自分の名前の一文字を用いた雅印を作ります。時間をかけて一文字に集中しますので、どなたでも取り組みやすい内容です。この機会にあなたも篆刻に挑戦してみませんか。

- 1.開講日時 平成19年10月7日(日)から11月4日(日)までの毎週日曜・全5回
午後1時30分～午後3時30分
 - 2.開催場所 石神の丘美術館 工房棟
 - 3.講師 吉原 凌雲先生(岩手書道協会会長)
 - 4.受講料 5,000円(道具・材料・消耗品等の実費)
 - 5.募集期間 平成19年9月23日(日)まで
 - 6.定員 15名程度
 - 7.講座内容 ①開講式、レクチャー
②彫りたい文字の決定、印稿作成
③印面整理、字入れ、印刀で刻する
④印刀で刻する、押印
⑤補刀、押印、閉講式
- 【申し込み先】石神の丘美術館 TEL0195-62-1453

美術館隣接 道の駅・レストラン「石神の丘」情報

このコーナーのお問合せ・ご予約は 道の駅「石神の丘」TEL0195-61-1600まで

9月のイベント情報

①川徳(盛岡市菜園)に出店

「岩手町物産協議会」では、9月14日(金)～17日(月・祝)の4日間、盛岡市菜園「川徳・地下食品売場」で物産品の販売を行います。「岩手町産直組合」もメンバーの一員。新鮮野菜をたくさん持っていきよ!

②道の駅・秋のイベント

9月23日(日)、24日(月・祝)は、道の駅石神の丘・イベント広場を会場にリンゴや花、新鮮野菜が盛りだくさんのイベントを開催!

③フリーマーケット開催

9月30日(日)、毎回好評の「フリーマーケット in 石神の丘」が開催されます。只今、出店者を募集中。1区画につき出店料は500円。詳しくは、上記までお問合せください。

秋のコース料理

季節と土地のめぐみを
ゆっくり味わってみませんか

◆食前酒 or ソフトドリンク◆オードブル/やまと豚と岩手町産しいたけのパイ包み焼き〜バルサミコソース◆スープ/かぼちゃのポタージュ◆魚料理/黒鯛のソテー〜バジル風味のブルブランソース◆肉料理/奥羽牛のビーフシチュー◆サラダ◆パン or ライス◆デザート/りんごのムースとりんごの赤ワイン煮◆コーヒー or 紅茶 3,150円(税込)

コース料理は予約制です。
上記まで電話でご予約ください。